

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年11月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)



11月27日 研究授業について

11月27日、浦島丘中学校にて研究授業（授業者：浦島丘中学校 大野陽平教諭）が行われました。年末のお忙しい時期でしたが、多数のご参加をいただきました。本当にありがとうございました。

【授業の概要】

北陸の地場産業（鯖江のメガネフレームなど）について、その成り立ちから、厳しい現状までを生徒と確認する中で、他地域との結びつき（特に海外）や前回までの授業の内容、地理的条件などから、「異業種へ進出する」または「メガネ産業を盛り上げる」のどちらかによって危機を乗り越えるかグループで話し合い、地場産業の持続可能性を探る授業。授業者の問題意識と教材研究の深さが光る授業でした。



【授業者の問題意識】

中部地方は東海地方・中央高地・北陸地方と気候・風土が異なる地域で構成される。一人あたり製造品出荷額等が関西地域や関東地域に比べて、2倍になるほど製造業が集積する地域となっているが、日本の高コスト化の中で起こる産業の空洞化や他の国から安い製品の輸入増大により大

きな影響を受けていることが課題となっている。

それは工業だけではなく農業も交通の発展により他の国からの安価で新鮮な食料がスーパーに並ぶようになり、自動車工業においては、いずれ韓国や中国が将来の展望をとら

えて市場に大きく参入してくることを予想しているのか、ガソリン車ではなく電気自動車やハイブリット車、またジェット機まで進出している現状である。

今回の授業でとりあげるのは、北陸の地場産業である。その中でも福井県鯖江市のメガネ製造に焦点をあてる。職人が地場産業として定着させることで大きな貢献をしている。しかし、現在鯖江の人々にメガネの話を知ると「日本でもっとも早く中国に市場を取って代わられた町です」と口にするのである。中国産や韓国産の安価で壊れにくいメガネが輸入され爆発的に売れているのが現状で、鯖江の市場は以前に比べると縮小してしまった。しかし、鯖江のメガネ製造は時代の変化に応じて、形を変え、技術の転用、異業種への進出、しくみの転換などを行い、産業を衰退させないように努力している。

単元を通じた授業では2時間目に東海地方の「TOYOTA」の自動車について学習する。そこでは歴史や他の地域との結びつき自然環境などの視点から、その地で確立してきた理由を考えさせる。そして、海外からの安い製品の輸入や海外へ工場を移転させることによる産業の空洞化などの課題に資料を通して生徒を向き合わせたい。マユの生産が落ちたときに自動織機を発明した豊田氏が自動車産業にその技術を生かして参入し、現在も自動車産業を中心に通信技術産業などにも積極的に関わるなど、持続可能な産業にしていくために他業種とつながっていることを理解させる。

3時間目には中央高地での、高原野菜や観光農園について取り上げる。現在、海外からの輸入増大により国産より安い価格で野菜などを購入できるようになり、日本の農家が危機的状況になっている。その現状を長野県は野菜や畜産物のブランド化により乗り越えようとしている。この現状を、資料を通して発見し、持続可能な産業にしていくためにどのような手立てを行っていけば良いか考察させたい。

この2つの授業を事前に行うことで鯖江市のメガネ産業の危機的状況の打開策を考察させる。今後のメガネ産業をどうするかという視点はもちろんのこと、今まで培ってきた技術を使って新しい取り組みができるということを考えてほしいと思う。

留意点としては日本の各産業の危機が海外から一方的に攻勢を受けていると、とらえになりがちであるが、中国など巨大な市場に対して輸出をしたり、技術協力をしたりすることで、多大なる恩恵を受け、今日の日本の経済があるという多面的視点をもって授業を展開したい。また今後、日本の産業が危機的な状況になっても、他国とのつながりや、改善に向けて多面的・多角的な視点をもつことで、チャンスに変えることができることを実感できるようにしたい。(指導案から抜粋)

第3回全体研究会のお知らせ

- 1 実施日時 12月27日(木)12:30~
- 2 場所 横浜吉田中学校コミュニティーハウス【旧富士見中学校】
横浜吉田中とは場所が異なります
- 3 内容 ・関東ブロック大会の理論のおさらい
・各分科会

裏面に本時の展開を載せました。ご覧ください。

本時の展開

学習の流れと主な発問	学習活動	指導上の留意点
<p>導入</p> <p>1. 北陸の産業について知っていることを答えてみよう。</p>	<p>◎北陸の産業について、知っていることを発表する。</p> <p>◎地図帳を使って、稲作以外の産業があること気づく。</p> <p>◎地場産業について理解する。</p>	<p>☆稲作、特にコシヒカリが有名などに着目させる。</p> <p>☆稲作以外に産業があることを理解させる。</p>
<p>展開</p> <p>2. 北陸に地場産業が多いのは何でだろう。</p> <p>3. 鯖江のめがねの現状はどうなっているんだろう。</p> <p>4. まずは鯖江市のメガネの強みや発展した理由を地理的に考えみよう。</p>	<p>◎雨温図から地場産業の立地条件を考えさせる。</p> <p>◎生徒のメガネが海外製が多いことから、海外からの輸入が大きくなってきていることがわかる資料と鯖江のメガネの事業所が減っている資料を見せて、その実態を読み取る。</p> <p>◎鯖江市のメガネ産業の特色や強みを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の農閑期に行っていた。 ・分業制でたくさんの方がそれぞれのパーツにわけて生産していた。 ・素材を鉄からチタンに変更したことで大きな成果をあげることになった。 ・有名になったことにより多数の企業にメガネを卸していた。 	<p>☆米作りが盛んな地域で、なぜ発達したのかを考えさせる。</p> <p>☆95%のシェアを誇る鯖江のメガネだが、現在は安価な外国産メガネに市場が奪われ始めていることに気づかせる。</p> <p>☆1学期行ってきた、交通や産業なども思い出しながら、自分ならどうするかを考えさせる。</p>
<p>鯖江市のメガネ企業の社員になってどう乗り越えるか考えてみよう！</p>		
<p>5. 4で考えた強みや発展した理由をもとにA・Bどちらの工夫で乗り越えたほうが良いか考えてみよう。</p>	<p>◎プリントにてAとBを確認する。</p> <p>A 異業種へ進出して、危機を乗り越える。</p> <p>B メガネ産業を盛り上げて、危機を乗り越える。</p>	

<p>6、海外製品に圧倒されている現在その危機をどのように回避できるか話し合ってみよう。</p>	<p>◎前時までの復習を行いながら、個人で考える。 でてきてほしい内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異業種への進出 チタンを医療や航空企業へつかう。 ・加工技術や分業制などの転用 チタンの加工技術を医療の骨とチタンの加工などにつかう。 ・しくみの転換など 作るだけだった鯖江が売るために、ブランドを立ち上げたり、メガネの知識をいかして相談室を開いたりしている。 <p>◎グループに分かれ、A・Bのどちらかを選択し危機的状況の打開策を話し合う。</p> <p>◎全体で発表。</p>	<p>☆東海地方と中央高地で学習したことを意識させる。</p> <p>☆4人一組で長を決めてから話し合いをさせる。</p> <p>☆次の資料を必要だと教師が判断したグループに配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チタンの特性 ・めがねの窓口の紹介 ・チタンの医療への写真 ・メガネのブランド化がわかる資料。 <p>☆根拠はより明確にしながら考えさせる。</p> <p>☆班で疑問に思ったことは鯖江の眼鏡協会に問い合わせをするということを事前に伝える。</p>
<p>まとめ</p> <p>7. 学習したことで、何が分かったのか、何に気がついたのかを考える。</p>	<p>◎鯖江市の実際に取り組みや市民の思いや願いを知る。</p> <p>◎本授業を受けての気づきや感想をプリントに記入する。</p>	<p>☆A B以外の方法があったり、質問があれば書かせる。</p>

* 研究協議では主発問「鯖江市のメガネ企業の社員になってどう乗り越えるか考えてみよう！」の是非や授業者の問題意識、単元の流れなどについてご意見をいただき、熱く検討・協議しました。